

## 恵那市飯地地域自治区視察記録

### 1 研修開催日時

平成28年10月18日（水）

### 2 研修場所

岐阜県恵那市飯地地区

### 3 研修参加者

まちサポクルー 14名

高田、松田、長沢、長沢、志水、清水、

山本、木野村、鷺見、矢野、田神、白木、山田、神山

市民参画部 3名 坪井、永井、山崎

事務局 2名 藪下、中村

### 4 恵那市 恵那市まちづくり企画部

飯地振興事務所 所長 山田芳彦

地域振興課地域振興係長 荒川利道

飯地自治区

会長 平井一平

事務局長 瀬瀬佳恭

### 5 日程 午前 9時 岐阜駅観光バス駐車場出発

10時50分 恵那市飯地コミュニティセンター到着  
コミュニティバス見学（里山バス）

11時10分 飯地地区説明及び質疑応答

午後 1時30分 昼食（料理旅館若福）

2時30分 地歌舞伎座見学

4時30分 岐阜駅帰着

### 6 内容

飯地地区概要について

平井一平会長

- ・恵那市内13自治区内で最小の人口640人。

かつては2,500人ほど居住。

- ・子どもの声が響く町を目指すが、こども園（11名）、小学校（24名）
- ・若者の移住促進 平成28年度は7名が移住。
- ・自治会と自治区

6区を3区に再編制。平成27年4月から

飯地地域自治区として自治会と自治区の役員を一本化（兼務）。

- ・里山バスの運行を平成28年10月から開始。  
オンデマンド方式を採用。



藪下 本日はありがとうございます。今日は岐阜市まちづくりサポートセンターのボランティアグループまちサクルーの学習会ということでお世話になります。よろしくをお願いします。

恵那市役所地域自治推進課荒川係長

恵那市地域自治区制度の概要をお話しします。恵那市は平成16年に周辺と合併しました。旧恵那市は8つの町がありましたが、5つが増えて13の町で構成しています。恵那市の人口は51,000人程度です。

地域自治区制度といいますと難しく聞こえますが、合併した13の町を地域自治区といいます。この飯地町も飯地地域自治区と呼んでいます。一つ一つの自治区に「地域協議会」を設けていますが、ここは各地域自治区の意思決定機関になります。ここまでは地方自治法が根拠で制定していますが、恵那市独自ですが地域自治区に代表となる方「自治区会長」を置いています。地域協議会とは別に実際に地域を運営する組織として「運営委員会」を置きました。さらに新たなまちづくり活動の支援のために補助制度も行っています。

また、わかりづらいのですが地域自治区という大枠の中に一番上に、地域自治区会長さんがいて、真ん中に運営委員会があって、運営委員会は自治会連合会と連携し、その下にまちづくり活動を担う団体、組織と連絡しながらまちづくりを運営し、地域協議会が事業や予算などの意思決定をするというものです。

行政からの補助金ですが、地域からこんな事業をやりたいという要望があれば補助金を出すようにしています。その補助金を出す事業をどうやって決めていくのか。地域の頭脳的や役割を果たす「運営委員会」とそれぞれの町で活動している自治会連合会も含めた各団体が協議をして、地域の課題は何か、どういう事業を進めていったらいいのか、ということを考えます。その案を地域協議会に諮って、そこで認められたものを行政に補助申請します。そして恵那市で審査をして決定すれば運営委員会に補助金を交付します。運営委員会は、決まった事業を連合会や各種団体といっしょになってすすめていく、という仕組みです。

運営委員会が地域を動かしていく組織ということは基本になりますから、当然地域の中にあつた自治連合会との連携を必要としますし、自治会ではなくても地域のまちづくりをすすめたいという人の団体もありますから、そういう団体の代表も一緒になってまちづくりをすすめています。

地域協議会は地域の意思を決定する機関です。地域計画は、平成28年度から10年間ということで各地域定めています。地域計画に即した事業について自ら考えたり、方向性を示したり、行政にも意見を言うことができます。

恵那市から、地域のこういう事業はどうだ、という問いかけをするときには地域協議会にお話をし、地域協議会で検討します。

運営委員会は頭脳的役割を持ち、地域を調整するということもあります。地域にはいろいろな課題がありますが、自治会活動だけでは解決しません。そこで、自治会も併せて地域の団体、地域の人をすべてを合わせてまちづくりを進めていく仕組みが必

要ようであろう、ということで、委員会を立ち上げました。

ですから構成メンバーとしては、その地域の実情に合わせ、その特色を生かすことができ、実際に地域を動かすことができるメンバーで構成します。自治会の関係だけでメンバーを構成しますと、各種団体が離れてしまうので、団体のみなさんも重なるように、自治会も団体も一緒のテーブルにつくという、運営委員会としています。

恵那市としては運営委員会を中心としてまちづくりをすすめていきたいとおもいますが、地域にはそれぞれの実情があります。ですから一律に進めることは困難な部分もあります。いきなりこのようにしてくださいと言っても、地域では、実情に合わないことがたくさんある、ということと、この制度が分かりにくいということもあって、住民側からこの制度は何のためにあるのか、わかりにくいから無しにしようという意見をいただいています。しかしながら、一方で、現実的には今までの自治会だけでまちづくりを進めることは少子高齢社会の中で、地域の住民の全員が参画できる仕組み作りが必要と考えられます。しかし、恵那市の制度が型にはまったものになってしまい、地域がそれぞれ苦勞をしているのもわかります。今後、行政側としてはより地域の実情に合ったものにするためにはどうすればいいのか模索をしている段階です。

この運営委員会を設置したのは28年10月からです。その前は「まちづくり実行組織」というものでした。でもそこでは組織に参加している人だけの活動になってしまいました。そこで、いつでも、だれでも、思いのある人が自由に参加できる組織として「運営委員会」を設置してまちづくりを進めています。

今後も恵那市としては地域の実情に合った、動きやすい制度を目指して考えていきます。

#### 質疑応答

藪下 できたばかりで課題があるということですが、岐阜市ではまちづくりを進めているのですが、まちづくり協議会と自治会連合会の関係はどのように整理をすればいいのか、ということがしばしば話題になります。自治会だけではまちづくりが進められないということですが、関係する具体的な事例があるのでしょうか。まちづくりと自治会が対立関係にあるのか、ということですが？

荒川 2年前に制度を変えたときは地域自治区の会長は一人に決めました。その前は地域協議会と自治会が対立するような構図がありました。自治会と協議会のどっちが上なんだという、誰の指示にしたがっていくのか、ということがありました。行政側からも自治会長に説明し協議会にも説明するということがありました。そこで、地域の代表はひとりにしましょうと決めました。飯地のようにうまくやっているところもありますし、中には市街地ですと、自治会に加入しない人が多くなります。そういうところでは自治会単位で何かをしようとおもってもうまくいきません。たとえば大井町では防犯関係団体といっしょになって活動をしています。地域によっては協議会、運営委員会、自治会の関係をどう進めていくのか悩んでいるところもあります。自分たちなりに考え、自分たちなりの組織を考えて活動しています。通常は自治会の役員が協議会や運営委員会の役員となってすすめています。

藪下 行政の要請、情報は地域協議会におろすのか、自治会連合会におろすのか？

荒川 行政の情報は自治会連合会におろして末端まで伝えていただきます。しかし、協議会には大きな問題、例えば学校の統合問題とか、恵那市の施策に対する問題を協議会におろしていきます。地域自治区会長会で行政の施策についての相談をしていますし、会長を通じて自治会連合会におろす情報を話しています。

藪下 地域自治区会長さんと地域協議会会長は同じ人ですか？

荒川 そういう人が多いです。自治会連合会会長さんも兼ねている人が多いです。

藪下 協議会も運営委員会も自治会連合会も役員さんは多くが共通をしているのですか？

荒川 企画は運営委員会、審査は地域協議会で同じ人が多いのもおかしな話ですが、地域によっては人材に限りがありますから、仕方がないということになります。

岐阜市 地域の事業に補助金を出すのですが一律ですか。

荒川 地域から申請が出てきますが内容により一事業50万円までとしています。隣の自治区と連携して事業を行う場合は100万円を限度にしています。平成29年度はトータルで3,000万円です。

藪下 事業の中身はどういうものですか？

荒川 生活環境の整備ということで道路改修、交通安全なども入っていますが、何が必要なのかということを考えてくださいとお伝えしています。ただ、少子高齢化がすすんでいることを考えると、中身は真剣に考えてください、とお伝えしています。川が綺麗なことはいいことですが、ただ綺麗ではなく子供たちにとってどういういいことができるのか、ということを考えてください。単なるイベント的なものはどうでしょうか、と話しています。

松田 岐阜市三輪地区ではまちづくり協議会と自治会があまり役員が変わりばえしないということ、加入者が減っていることがあります。人材はどうやって確保しているのですか。

荒川 高齢者が増えてくると役員の成り手も大変です。まちづくり組織を作っていますが、自治会だけで組織を作っているわけではなく、各種団体も加入して組織しています。自治会の役員は1,2年で交代する機会が多いので地域のまちづくりを長く考えていこうということがあまりありませんので、地域のことを考えていこうという人たちをメンバーに加えて組織をしています。

坪井 地域の皆さん方で力を合わせてどういう新しい活動が行われているのですか？

荒川 飯地のコミバスは自治会だけではできません。大井町の防犯パトロール（青パト）など自治会だけでなく団体や企業などもみんなで新たに取り組んでいます。

岐阜市 地域計画を策定するときは行政も入っているとおもいますが、

荒川 各地域には振興事務所を置いて事務所長を中心にまちづくりを進めています。

一年以上かかえて地域計画を作っています。26,27年度から28年度の計画を策定してきました。各地域では、策定するためのメンバーを、運営委員会や協議会だけで無くして他のメンバーも募集して考えています。

会長 これからの地域を担って頂く若い方々にも入っていただいて練り上げました。地区の皆さんにアンケートを出したり、広い範囲から特に次世代を担う方々から意見を取り入れた中でまとめてきました。

瀬瀬 まちづくり事務局長の瀬瀬です。よろしくお願いします。地域自治区の協議会のことを主体に説明をさせていただきます。協議会と自治会が合併して地域自治区ができていますのでどういう課題が生まれてきたのかということをも説明させていただきます。元々自治会連合会があり、合併後に協議会ができました。元々自治連合会は、飯地には6部落があるのですが連合会は、飯地地区の最高意思決定機関でした。自治区ができたとき、協議会の方々は一生懸命町作りをやって頂けるといって、自治会連合会もがんばっているのですが、基本的に自治会の方々が腑に落ちなかったのは、これはどっちが意思決定機関なんやということでした。二重行政になってまうぞと言うようなことが問題になりました。例えば、恵那市の大半の補助金は地域協議会においてきて自治会には降りてこないということになります。協議会はがんがまちづくりをやれるのですが、自治会はこの連絡事項をまわしてくれ、というような簡単なことになってしまいました。連合会の役割を落としてしまったようなことになり、そこをどうなっているのか、私らの代表は自治会では無いのか、なんで協議会がやるのかな、という声が出ていました。どちらも選べれてきていますが、選挙で選ばれてくるのは自治会連合会でした。喧嘩するわけではないのですが、どうも腑に落ちないという気持ちでした。協議会と自治会の両方に役ができてしまい、役が二倍あるわけです。若い人にとって役が多すぎて飯地には住みたくないという声が出てきました。そこで、協議会の会長さんが中心となってこれではいけない、ということで平成29年から地域協議会と自治連合会を一本化していこうということになりました。それまでは飯地自治区協議会という組織が自治会にあったのですが、それを改めてまちづくり協議会にあらたに各団体が入る4部会をもうけてまちづくりのスピードをあげています。また各区から区長と委員が出てきていますので、各部落からの意見を反映できますし、何かあったときに持ち帰って部落の意見をきいてください、ということですがこれは飯地が小さい故にできたことかもしれませんが、行政の都合で急にきた話ですのでどうしてもそこには問題がおきてきました。ただ、町のことは一つの組織が動かしていくのが一番良いことかな、と思います。自治連合会にとってのメリットは何かといいますと、こんどまちづくりでこういうようなことが提案されているのですがどうですか、というときに区長が持ち帰って部落の意見を聞いて持ち帰ってくるで、というように全体を集約するメリットがあるのですが、ただし、いちばんまずいのは、当て職ですから、やる気のある人がはいつてきているわけではないと、まちづくりのスピードが無くなってしまうこともあるということです。そのところを調整しなければならないという問題もあります。

自治区を作ると新しい制度と旧来からの制度をどう調和するのかという課題が出てくると思っています。今のところ飯地ではなんとか1年を過ごしてきているということです。今まで6部落から代表を出していましたが地区を再編しましょうということで、3地区にまとめさせていただきました。役を減らすこともできました。

次に運営委員会がどんな活動をしているのか説明をします。地域計画は27年からがんばって部落を回ってつくりました。今現在630人ほどの人口で一番の問題は、消滅集落になるという危機感はみんながもつことができています。ですからみんなが何かをやらないかなという意識はみんな

なが持っています。

計画の柱は4つあります。一つは移住定住環境の整備ということ、一つは子育て支援と高齢者ケア、そして地域資源を活用して交流を促進しようということ、組織変革と産業促進ということです。特に移住定住には力を入れていまして、古民家リフォーム塾を立ち上げて、古民家をリフォームしますよ、ということ在全国に発信して講座生を募集します。そして月に1, 2回ですがみんなが集まってリフォームする技術を学びながら、飯地を知ってもらって飯地に移住をしてもらうきっかけをつくるという活動になります。このおかげであるていど世帯数が増えているということもあります。遠くですと東京とか茨城から参加した人がここに住むことになりました。リフォームすると同時に会員がよければ家に泊まってください、ということで飯地を大事しながら活動をしてもらっています。

今年は事務局とリフォーム塾がタイアップして飯地区の空き家の状況を調べています。そして、空き家を貸してくださるとか売ってくださるところを順番に登録しています。田舎に住んでみたいという人の一番の問題はお金が無いということです。一軒の家ですと数千万円のお金が必要になるのですが、どうしても安い物件しか入ってこないのです。安い物件を買って自分で直して入るといことが行われているのです。家を借りるといのは大変なことで、思い出があつて売ったり貸したりしてくれないのです。そこを頼んで貸してもらっています。

公共交通の充実は最初にご覧頂いたように里山バスの充実を目指しています。また、子育てのサポートですが、どうやっても若い人たちを応援しないと飯地に定着しないということですから、若い人たちを応援するということと高齢者も大切にしています。ただ、若い人の人口が少ないので、交流の場を作るのが自分ではできないということになりますから、SNSなどで今度集まる場をつくれますから参加しませんか、という発信を町外の全国にしています。

また、恵那市ではふるさと納税をやっていますが、地域を特定すればその地域に入るようになっていきます。飯地に納税と言えはそうなるのです。飯地で家を建てるとか修繕するというと、その家庭の子どもに毎月養育費がでます。飯地小学校の卒業生に連絡して協力を呼びかけています。また、30年度からは学童保育を導入します。

長く飯地に住んでいると良いところは何も無いと思うのですが、何も無いという発想で無くて良いところを見つけていくという思いが大事だなと考えてやっています。

食べ物のお話ですが、飯地名物はイカの糶付けです。鳥もありますが、今日のお昼ご飯に出るとおもいますが、もともとは大晦日に食べられていた食べ物ですが、今は飯地のグルメとして販売しています。

総務省からの間伐の補助金をもらって間伐をしているグループもあります。間伐が目標ではありません。全国から間伐の希望者を募集して、飯地を知って頂くということをやっています。

活性化の一つとしてキャンプ場の再生をやっています。北軽井沢のアドバイザーの力をお借りしながらやっているのですが、お金をかけるのは建物では無くて一番大事なことは人材や、ということです。まちづくりに若い人たちが仕事や役職に関係なく関係をもってもらおう仕組み造りが大事なんだということです。

今全国で自治区が話題になっていますが、私たちの地域協議会ができて一番ありが

たいとおもったのは、恵那市がやってくれるからいいや、ということではなくて、自分たちがこうやりたいから金を出してください、やってくれということではなく自分たちで考えてやってみるから、という地域の主体性がだんだんできているな、と思います。

荒川 ご質問があればお願いします。

長沢 全国各地から移住者を迎えるときに大事なことは仕事ではないかと思いますが、何か対策があるのでしょうか？あるいは地域資源の活用が関係しているのでしょうか？

瀨瀨 地域計画を作るときに名古屋大学の高野先生にご指導をいただきましたが、愛知県豊田市朝地町でも移住者を募集したのですが、そのときのお話ですが、若者で田舎に住みたいという人がけっこういるのですが、そういう人は自分で生活のことを考えるので世話をする必要はありません、ということでした。飯地にきた人たちも自分で考えているので、ここで仕事をしたらというような世話はしていません。確かに地域に立派な会社があることがベターですが、飯地にも小さな工場がありますのでそこで働くことはできます。今まで移住してきた方々に就職口を世話をしたことはありません。移住者の多くの方々は自分のやりたいことがやりたいという気持ちが強いので、いくつかの仕事を組み合わせながら仕事をやっているようです。例えば、自分が一番やりたいことは靴造り、ということでは絶対にはなさない、いやな仕事をしながら田舎暮らしはしたくない、やりたいことをやるために田舎に来たんだ、という気持ちが強いのです。子どもができたらどうするの？という心配はあるのですが、彼らは価値観が違う、今までとは生き方が違う、と感じています。

藪下 組織の再確認ですが、飯地地域協議会で計画を立てる場合に部会を設けています。部会が4つありますが、それは基本施策の4本柱を担う部会となりますか？

瀨瀨 そのとおりです。

藪下 事務局の構成はどうなっていますか？

瀨瀨 事務局長が1人、事務員が1人（週2日です）、市から派遣して頂いている嘱託が1人です。

瀨瀨 現在は活動部会は12があります。もともとは、福祉部会とか教育部会でしたが、会を作っても当て職になってしまいますので、今は運営委員会の下で組織していますのは、やる気のある団体が会を作っています。しかし、福祉部会や教育部会というものを今後どうするか検討をしています。今はやれと言われたからやっているという人を少なくしています。

長沢 若者や女性をどんどん入れていかなければならないという話がありましたが、岐阜で自分の親父と同じ世代の人たちと話していると、壁があるとか溝があるということではなかなか若者の意見を聞いてれない、ということで対立構造があるのですが、飯地ではいかがでしょうか？

瀨瀨 まだまだ若い人たちは序列関係を感じていると思います。ただ、若い人が活動をして移住者が増えてきたということで、上の人たちが若者の意見を聴かないといか

んな、という気持ちが出てきていると思います。私にもずけずけと言いきやろうと思うこともあります、お互いに言いたいことを自由に言う雰囲気になっていると思います。

鷺見 人口640人で若い人はどのくらいいるのですか？

瀬瀬 65歳以上の高齢化率が45%以上の地区ですので、若い人が少ないのですがそれでもよくがんばっていると思います。今の悩みは消防団のなり手がいないということと青年団の加入者がいないということです。若い人をまちづくりの仲間はどうやって入れるか、と言うことが課題ではあります。朝早くから仕事に出かけて帰りが夜遅くと言うことですので、グループにどうして入ってもらおうのかということです。

鷺見 移住者は自分がやりたいことがあるからこういう所に来る。1人でも来たい人は田舎に来ると思います。ですから家族で来たいと思う人はいないのでは。普通の人は来ないから人口が増えることは無いと思いますがどうでしょうか？

瀬瀬 人口が減ることは緩やかにしたいと思いますが、若い人たちが町に関心を持つ比率が少しずつ上がってくれることを期待しています。

会長 私たちも飯地に移住してくる人だけでなく、町の外で家を建てている若者が多いですから、飯地が元気になれば若者が飯地に帰ってみようと思ってくれると狙っています。将来的には国道418号を改良してより便利になるように整備を進めていきます。そうすれば岐阜や名古屋へも便利になり、住宅建設でも魅力的になるのではと思います。

長沢 揖斐川町の旧春日村での話ですが人口は減っていますが、東京で仕事をしてきたデザイナーのかたがパソコンで仕事ができるので移住して来たり、天空の茶畑で名前を売ったりしていますが、春日でも春日で生まれて春日で育った若者がとてもがんばっています。今日の飯地の話を是非とも伝えてきます。

荒川 人口減少率は20年間でみますと34%ということで、高齢化率も44%ということで大変な高齢地域です。若者に不足しているという状況です。それを打開するために住宅を作ったり、ふるさと納税を導入し、子ども1人あたり月額5千円を補助したり、新しく住みだした方や賃貸住宅に入ったかたに支援をしています。炭を作って販売する実験も行っています。

飯地里山バスは今年の10月3日から運行しています。運行の主体は、飯地地域自治会運営委員会です。運行の地域ですが飯地町内です。毎日運行しています。8時から5時まで、休日は7時半から6時までです。予約制に基づいて運行しています。運行経費は運賃とほとんどが市からの補助金です。予約ですとか庶務は地域事務所が行っています。予約は前日の午後5時までにいただきます。帰りは中継地から定時でバスが動いていますから利用をさせていただきます。利用料金は300円です。乗り継ぎで市街地へ行くときは500円です。町内利用は片道100円です。自宅付近まで送迎していただきます。運転手さんは町内から募集をしました。当初15名でしたが今は13名がいます。実際は5、6名が中心になっています。日額6千円ですが、予約がダブる場合は一時間800円をお願いしています。2種免許が無い場合は講習

をうけていただきます。バスのラッピングはイラストを募集してつけてあります。1年間運行した利用状況ですが、延べ1680名余りということで、1日あたりで5人弱になります。利用者ですが一般が半分、高校生、中学生がという順です。小学生の町内見学にも利用しています。

運行の経緯ですが、平成24年に恵那市でコミバスの導入についての話し合いが始まりました。平成25年には飯地でも公共交通の調査が始まり、他都市の視察も行いました。平成27年には恵那市との調整にはいりました。6月に協議会でコミバスの導入を決定しました。そして平成28年10月にスタートをしました。高齢者や高校生の脚の確保という効果があり、中学生の部活動にも利用をされています。課題としてはまだまだ利用者が少ないですからピーアールをすることと、利用していない高齢者、運転手の確保、振興事務所が庶務をしています、将来はどうするのか検討する必要があります。

藪下 ありがとうございます。これで終了いたします。